

下関西高等学校 進路だより

令和4年12月号 進路指導部

～3年生は本番に向けて追いこみです！！～

今月も入試動向についてまとめたので報告をします。今回は難関大学、医学科、中・四国・九州地区についての入試結果や模試動向に関する主なトピックについてです。

1 難関大学

① 国立大学(東大、京大、北大、東北、東工大、一橋、名大、阪大、神大、九大の難関10大学について)

- ・難関10大学一般選抜で注目が高い入試変更点は**一橋**に募集人員60人のソーシャル・データサイエンス学部が新設されたことです。この学部は社会のデジタル・トランスフォーメーション化が進展する中で社会科学とデータサイエンスの知識の融合により、データ分析の技術をビジネス革新や社会課題の解決に応用することを目指していく学部です。詳細はホームページ等で確認してください。
- ・第1回駿台全国模試において難関10大学で昨年より志望者を増やしたのは、文系では東大、一橋、京大、神大、理系では東大、京大、北大、神大です。
- ・今年度の人気系統は文系では法学部、経済学部、理系では医学部、薬学部、工学部、農学部です。難関大も卒業後の進路が比較的イメージしやすい学部で志望者が増えてきています。
- ・**東大**は昨年度入試では全体の志願者が一昨年度9089人から昨年度9507人と4年ぶりに増加しました。文系は3年ぶりの増加、理系は2年連続の増加となりましたが、第一段階選抜では共通テスト難化により2001年以降の入試では全ての科類で過去最低点となりました。駿台第1回東大入試実戦模試における文科類の志望指数は94、理科類は97とやや減少しています。文Ⅰは志望者数前年比104とやや増加していますが、難易度レベルに変化はないようです。以下、文Ⅱは志望者数前年比93で難易度の変化はなし、文Ⅲは志望指数88で難易はやや易化。理Ⅰ、理Ⅱはともに志望者数前年比97で難易の変化はなし、理Ⅲは反動から志望者数前年比107で増加傾向となっておりますが、難易度に大きな変化はなく今年度も厳しい入試となりそうです。
- ・**京大**は全体の志願者数は9年ぶりに増加(+165人)しています。ただし、文系は105人減少(4年連続減少)となっておりますので、理系が志願者を270人増やしたことがわかります。理高文低が顕著にあらわれた昨年度入試となりましたが、今年度のベネッセ模試では全体の志望者数前年比は116と大幅に増加しています。また、第1回駿台全国模試では文系は教育のみが志望者数前年比122と増えているだけなので理系上位の入試となりそうです。法は上位層が現状は薄いですが、経済から志望変更してくる可能性があるので注意してください。経済文系は上位層が厚くやや難化傾向で経済から文、教育への志望変更が予想されます。工は学科別で合格者平均点、最低点がともに高いのは情報学科、低いのが工業化学科で総合得点に80点以上の開きがあります。出願時には第2志望をどう考えるかが重要になってきます。なお、得点開示から理は数学と理科、薬は国語と英語が得意な生徒が合格している傾向が見られます。
- ・西高生の志願者が多い**九大**は昨年度入試の前期日程の志願者数は前年比99%と一昨年度並みでした。文系は文、法で志願者を増やし、経済、共創は前年並み、教育学部は募集人員36人に対し97人で前年の133人から大幅に減らしました。教育は最近、隔年現象が顕著なので注意が必要です。河合塾のデータでは前期はほぼ全ての募集単位で個別試験のランクダウンが目立ちました。特に教育、経済工、理の数学、芸術工の環境設計とインダストリアルデザインは2次ランクが偏差値-5.0ポイントと大きく減少しています。文系では教育と共創の共通テストの実態ボーダーが逆転しており、教育の方が低くなっています。実態ボーダーを示す学部別得点率は文系では経済76、法74、人文72、教育69、共創72。理系では経済工67、理は学科別で数学70、化学69、地球惑星と物理68、生物67。工は学科別でⅠ群72、Ⅴ群71、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅵ群が69。芸術工は学科別で音響とメディアが75、学科一括が72、環境が70、未来構想が69、インダストリアルデザインが68。農67で医は学科別で医82、生命科学71、

<次ページへつづく>

放射線67、検査63、看護62。薬は臨床薬6年が74、創薬4年が73。歯が67でした。共通テストの学力分布については文系では理科・地歴公民の出来具合で差が開いたようです。理系では得点率70%以下の層からも多数合格者が出ており、数学②と理科②の出来具合で差が開いたようです。また、共通テストは難化しましたが、個別試験の方の得点率は昨年よりもアップしました。

- ・**阪大**は昨年度の共通テスト難化で安全志向が働き、志願者の減少が予想されていましたが、阪大全体の志望者が一昨年度 6991 人から昨年度 7501 人へと4年ぶりに増加しました。これは、京大からの志望を変更した受験生が多かったことと共通テスト重視配点の神大への変更が難しかったことが要因と推測されますが、今年度の第1回駿台全国模試では入試結果とは逆に志望者は6%減少しています。文系は模試偏差値50から55の層が増加していますが、理系は昨年並みの動向となっています。外国語学部は学部内で比較すると欧州系の言語専攻が倍率は低いが成績レベルが高く、アジア系言語専攻が倍率は高いが成績レベルは低い傾向にあります。とにかく阪大で外国語を学びたいと考える受験生が専攻を選ぶ時には各専攻の最低得点推移、倍率推移、募集人員に注目する必要があります。また、工の合格最低点が一番高いのは3年連続で電子情報工となっています。昨年度は2位以下が応用理工、地球総合工、応用自然科学、環境・エネルギーとなっていました。基礎工は同様に情報科学が3年連続で一番高く、続いてシステム科学、電子物理科学、化学応用科学となっています。工と基礎工は隔年現象があるので注意が必要です。
- ・**神大**は経済、経営の動向が気になりますが、こちらも隔年現象が見られます。昨年度入試では両学科ともに志望指数が100以下でしたが、より減少したのは経済で隔年現象が続きました。順番的には今年度は経済で志願者が増加する番ですが、模試では経済が難化、経営が易化傾向となっています。ただし、共通テスト次第で大きく変動があるかもしれないので要注意です。
- ・**東工大**は昨年度入試の志願者が一昨年度 3538 人から昨年度 3802 人と増加しました。第一段階選抜以外の合否判定に共通テストを利用しないこともあり、共通テスト難化も影響しているのではないかと思います。東工大では学部制ではなく学院制をとっており、学士課程・修士課程・博士後期課程を継続的に学修しやすい独自の教育カリキュラムを採用しています。学院は理学、工学、物質理工、情報理工、生命理工、環境・社会理工の6学院構成となっています。
- ・**一橋**は昨年度入試では後期日程の経済における志願倍率が4年ぶりに20倍台となりました。今年度の各模試では全学部で志願者が増加していますが、成績レベルは法、社会で易化傾向がみられます。
- ・**北大**は昨年度入試の志願者は前期日程がやや増加し、後期日程は全体の募集人員493人に対し、一昨年度3617人から昨年度4107人へと590人増加し、大人気となりました。理系における後期合格者の前期受験大学は水産、獣医以外は東大で、ほぼ50%強の受験生が前期東大不合格、後期北大合格となっています。
- ・**東北**の昨年度入試の志願者は全体では微減で前期日程は2年ぶりの減少。後期日程はやや増加で3年ぶりの増加となっていますが、学部別では理がベネッセ記述模試の志望者数前年比110で集まってきています。
- ・**名大**は昨年度入試では文系は増加していますが、教育の人間発達科学は上位層が前年比の70%程度に留まっています。理系はほぼ昨年並みの志望者となっています。

② 医学部医学科

- ・医学科のトピックは地方の国立大学を中心に志願者が増加傾向にあることで、昨年度入試では、中国地区でも志望指数は106と増えています。また、地域の医師確保のために一般枠を減少し、地域枠の割合を増加するなど医学科については多くの大学で募集人員や選抜方法について変更点が発表されているので、必ずホームページなどで志望大学や気になる大学の募集要項を確認してください。
- ・最近、反動現象や隔年現象が極端に出てくるケースも増加しているので注意が必要です。昨年は志望指数が大きく増えた国公立大学として岡山150、大分142、香川136などがあげられ、その反面、大きく減らした例として名大43、大阪公立68、鳥取60、山口70などがあります。名大のように半分に以下に志願者が減る例は他学部ではほぼ見られませんし、地元の山大も今年度の一般選抜では反動により志願者が大幅に増加することも考えられるので十分な準備が必要です。

・国立大学の医学部では面接が必ず課されるので準備しておく必要があります。種類も個人面接以外に、プレゼンテーション、集団面接、集団討論など多岐にわたっているので、志望校のホームページなどで事前に調べておいてください。特にアドミッションポリシーの確認は必須です。

③ 私立大学

- ・関東地区は各駿台模試では**早慶**や**東京理科**の志望者数が減少気味で、明治、青山、立教、中央、法政の**MARCH**と呼ばれる大学では明治、中央の志願者が増えています。青山は総合問題を導入してから志願者が大幅に減少していますが、回復の兆候はまだ見られません。早稲田は共通テストで数学を必須にしてから志願者が大幅に減少した政治経済学部は横ばい、共通テストを課す方式を新たに導入する教育学部や、以前から共通テストを課していた国際教養学部は減っています。
- ・関西地区では**関関同立**(関西大、関西学院大、同志社大、立命館大)の模試での志願者が増えています。関西地区は例年、国公立大の志望者が多く、その併願先として人気が高いです。**産近甲龍**(京都産業大、近畿大、甲南大、龍谷大)も同様です。しかし、共通テスト難化の影響で共通テスト利用方式は受験生には不安心理が働くことも予想されるので本番に向けて注意が必要です。

2 地区動向について ※11月駿台ベネッセ共通テスト模試の動向を中心に分析しました

① 国立大学+北九州市立大(前期日程を中心に)

- ・**岡山大**の前期日程は志望者数前年比111で増加。後期日程廃止に伴い、近隣の香川大、愛媛大の後期日程の志望者が増加。文、法の志願者は増加しており、特に法の成績上位層(ベネッセ模試においてAもしくはB判定をマークした受験者)が厚く難化が予想されます。
- ・**広島大**の前期日程は情報科学、教育、理、医、薬、工、法などで入試変更点があります。法は広島市東千田キャンパスに移転します。文は3年連続入試での倍率が1倍台と低倍率となっていますが、今年度も志望者数前年比90と反動が見られません。理はほぼ全ての学科で上位層が薄いです。特に化学は志望者数前年比70、上位層前年比65と極めて低く、共通テスト後の動向が注目されます。薬は志望者数前年比103、上位層前年比128と人気が高いです。後期日程では工の全学科で志望者が増加しており注意が必要です。特に岡山大後期日程廃止の影響で岡山、愛媛両県からの志望者が倍増しています。
- ・**山口大**の前期日程は人文、国際総合、経済などの文系は志望者数、難易度ともに前年並みです。教育は山大に限らず、他大学でも志望者が集まってはいません。しかし、学科毎の募集人員が少ないので共通テスト後は志願先の変更などが考えられるので注意が必要です。理は全体の志望者数は前年並みですが、化学、地球圏システムは上位層が前年比50台と非常に低い状況です。工は昨年度1.7倍と低倍率でしたが、今年度も全ての学科で志望者数前年比、上位層前年比が昨年度を下回っています。医学部看護は過去3年連続入試倍率が1倍台でしたが、今年度は上位層が前年比160となっており、昨年度よりは厳しい状況が予想されています。農は生物機能科学で志望者数前年比109と集まってはいませんが、上位層前年比は79とレベルは高くはないです。共同獣医は前後期ともに志望者が増加しています。特に前期は志望者数前年比109、上位層前年比122と厳しい状況です。全統模試では福岡県の志望者数が前後期合わせて昨年度の13人から33人へと大幅に増えています。
- ・**鳥取大**の昨年度入試は一昨年度より難化した印象でしたが、今年度の模試動向では地域、工は志望者が減少、農は増加傾向となっております。鳥根大との隔年現象も見られるので、山陰地区の志望も視野に入れている生徒は共通テスト後にしっかり分析、判断する必要があります。
- ・**鳥根大**の前期日程は法文法経が志望者数前年比77と大幅に低下しています。上位層が少ないのでチャンスが大きいように見えますが、中間層が厚く、全体のレベルは前年並みです。したがって、共通テスト後は分布を細かく分析する必要があります。学校I類は現在の志望者は少なく、一昨年の倍率は1.2倍と低かったので隔年現象で今年度は合格の可能性が広がることも考えられます。総合理工も各学科とも志望者前年比が低下、全体の偏差値レベルも-0.5ポイントとなっており、鳥取大の工学部よりも下がり幅が大きいです。
- ・**徳島大**の前期日程は理工が中国地区の多くの工とは対比的に志望者指数前年比115、上位層前年比122と人気が高まっています。このような募集単位では共通テスト後の判定が良くても逃げ切れるかどうか微妙な場合があります。個別入試の配点や赤本などで過去問を事前に確認し、その時点の自分の学

<次ページへつづく>

力や試験当日までの学力の伸びしろなどを見極めながら出願することが肝要です。

- ・**香川大**の前期日程は法が一昨年度入試で大きくボーダーを下げましたが、昨年度は反動でボーダーは元に戻りました。今年度は夏の模試では志望者が多かったですが、11月模試では志望者数前年比90と下がってきています。香川大は岡山からはJRで1時間と十分自宅から通えるので、共通テスト後は岡山大との兼ね合いで変動が予想されます。岡山大の出願状況にも注目しながら考えることが重要です。
- ・**愛媛大**は農学部、社会共創学部以外は志望者数前年比が法文84、教育91、理91、工88、医94と昨年度を下回り、上位層も薄くなっています。
- ・**九州工大**は前後期日程、工、情報工学部ともに志望者数前年比は微減ですが、上位層前年比は各学科とも低く、学部全体で見ても工は69、情報工は66です。しかし、共通テスト後には九州大学の志望者が一定数変更してくるので配点が高い数学、理科の学力を見極めながら出願する必要があります。
- ・**福岡教育大**は実質倍率1倍台の低倍率の入試が続いていますが、今年度は全体の志望者数前年比111と高くなっています。後期日程も実質倍率2倍台の低倍率が続いていますが、後期日程はどこの募集単位も一般的に共通テスト後の出願倍率と実質倍率には大きな開きがあるので出願倍率の高さにごまかされないように、最後まで諦めずに粘り強く取り組んでください。
- ・**北九州市立大**はコロナ禍の影響が大きい系統の外国語学部で志望者数前年比が各学科とも80台と低く、上位層前年比も同様です。特に中国学科は上位層前年比が46と昨年の半分以下となっています。国際環境工学部は建築デザインと環境生命工の上位層前年比がそれぞれ129、129と高くなっているので要注意です。
- ・**佐賀大**は前期日程の経済が志望者数前年比84、上位層前年比77と低くなっています。理工は前期日程が志望者数前年比89、上位層前年比83と低いですが、後期日程では志望者数は前年並みですが、上位層前年比が122と上昇しているので、出願には注意が必要です。
- ・**長崎大**は情報データ科学で志望者数前年比89、上位層前年比76と高くありません。低倍率が続いている工学部も志望者数前年比94で反動が見られません。薬は上位層前年比111と高くなっています。
- ・**熊本大**は文、法の文系は志望者数前年比が80台前半で低いですが、理系は前年並みです。メディカル系は医学部保健学科で上位層前年比が看護67、放射線74、検査64と低い状況です。薬は志望者数前年比96で微減ですが、上位層前年比が60と低いです。共通テスト後の長崎、九大からの流入が考えられるので注意が必要です。
- ・**大分大**の経済は前期日程では3年連続で倍率が上昇していますので注意してください。理工は上位層前年比が64と山大工学部以上に低いです。しかし、後期日程は面接で学科試験がなく出願しやすいため上位層が集まる可能性があります。例年、実質倍率はあまり高くないです。医学部看護は隔年現象が顕著で一昨年は1.3倍でした。福祉健康は理学療法の上位層前年比が47と低くなっています。
- ・**宮崎大**では工学部が前期日程240人、後期日程90人を一括で募集していますが、志望者数前年比が前期84、後期81、上位層前年比が前期75、後期57と非常に低いです。
- ・**鹿児島大**は安定した人気を誇っていましたが、今年度は農、共同獣医以外は志望者数前年比が100を下回っています。ただし、利便性が高いことから共通テスト後は流入があるので注意してください。

以上ですが、不明な点は遠慮なく私まで質問をしてください。3年生は目前に共通テストが迫り、特に模試で思うような結果が出ていない生徒は焦っているかもしれませんが、改めて各大学や他校の受験生など、君たちの相手を分析して確信したのは西高生にとって大きなチャンスが沢山あるということでした。相手を舐めてはいけません、必要以上に恐れる必要もないです。残りの時間を粛々と今まで磨いた集中力を発揮し、受験勉強に邁進してください。そして、分析も必要ですが、一番大事なことは君たち自身が自分の為に受験勉強をやり切ったと言えるまで校是「**天下第一関**」を受け継ぎ、**チャレンジ**し続けることです。月並みですが、悔いの残らない受験をすることが君たちの前途ある将来に繋がっていきます。保護者をはじめ、担任や教科担当の先生方など、周囲に働きかけながら、自分の応援団が結成されるように頑張ってください。私も全力で応援しますので、3年生に限らず必要なことがあれば遠慮なく言ってください。

(文責・松村)